

OPINION

中部経済新聞

インド人材の日本での活躍には言語や文化への習熟が必須との認識の下、日本はインドで「介護」「農業」「建設」の語学・技能検定の実施を開始しており、西国間の協力をさらに強化すべく、今後は宿泊施設など他の分野でも開設

ナビゲーター

される予定です。

協力は、インドの高い技能を持つ若者を多数送り込むための持続可能なエコシステムの確立にとって画期的な年でした。チャンドラセカール電子・情報技術相兼技能開発・起業促進相は、東京のインド大

日本への期待 世界各地から

其 80

人材の高度化が唯一の切符

使館で、日印技能コネクトと進出促進推進室の発足を発表しました。インド人材の持つ計り知れない可能性について、日本企業の認識を高めるねらいです。

インドでは、技能開発・起業促進省が「スキル・インテグリア」の下、政府、産業界、教育界と協力して持続可能なスキル戦略を展開すること

インドから(下)

練の手段を改善することに重点が置かれるだけでなく、同時に雇用可能な人材のより大きなパイプラインを構築することにも重点を置いていきます。このビジョンに沿って、

NSDCの100%子会社であるNSDC International Limited (NSDCI) は、技能開発のロードマップにおける民間分野での役割を認識し、一貫した技能移転に関する事業システムを形成するた

学習を推進するために、インドに複数の日本語トレーニングセンターを設立することにも力を入れています。働き方が世界的に変化する中でインドは、若者に世界市場の需要に 대응する能力を身に付けてもらうことで、世界で最も人気のあるアウトソーシング先としての地位を強化しようとしています。インドがこの地位に到達するために日本は極めて重要な役割を果た

る若者を最大限に活用するためには、人材の高度化が唯一の切符であることを理解しています。若者がこのチャンスに満ちた世界を最大限に活用するには、将来を見据えた労働力の創出が不可欠であり、これは経済的につながった世界への鍵でもあるからです。この節目の時に、インドと日本の強力なパートナーシップとスキル開発の取り組みを再確認し、インドの若者が将来の仕事に向けて準備をすることで、世界経済を活性化できるものと考えます。 【アンシュル・シンガル NSDC日本担当 リーム中産】 (月曜日に掲載)